

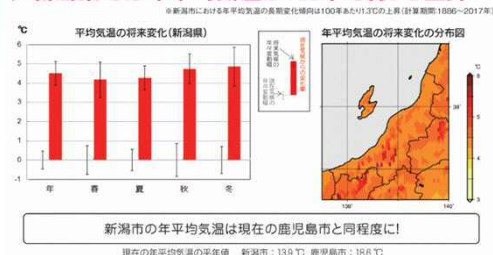
新潟市の気候の変化

- ▶ 新潟市の年平均気温は、100年あたり1.4℃上昇。（1886年-2018年）
- ▶ 熱帯夜は増加傾向、冬日は減少傾向。（1882年-2018年）
- ▶ 日本海の平均海面水温は、100年あたり1.70℃の上昇率で、世界全体の2～3倍。
- ▶ 北陸～九州東シナ海側の海域の海面水位は、年間2.4mm上昇。（1960-2018年）

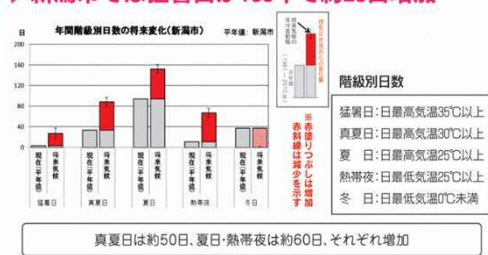
新潟市の気候の将来予測

- ▶ 21世紀末までに年平均気温が約5℃上昇。現在の鹿児島市と同程度に！
- ▶ 21世紀末までに猛暑日は約20日、真夏日は約50日、夏日・熱帯夜は約60日増加。
- ▶ 滝のように降る雨（1時間降水量50mm以上）が増加。
- ▶ 雨の降らない日（無降水日）が増加。
- ▶ 信濃川の流量も変化。12月～3月が増え、4月～5月に減少が予測。

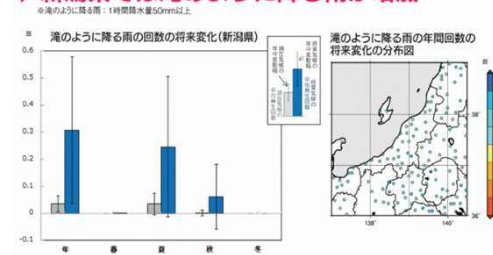
▶新潟県では年平均気温が100年で約5℃上昇



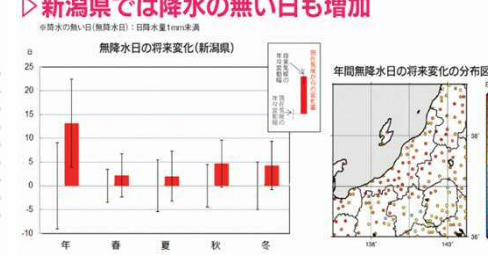
▶新潟市では猛暑日が100年で約20日増加



▶新潟県では滝のように降る雨が增加



▶新潟県では降水の無い日も増加



【(出典)新潟県の21世紀末の気候(新潟地方気象台)】

気候の変化は既に現れています！一人ひとりが行動することで、地球温暖化の防止につなげましょう！

新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）概要版

2020（令和2）年3月
新潟市環境部環境政策課
電話：025-226-1357

E-mail：kansei@city.niigata.lg.jp

新潟市 温暖化対策 実行計画

新潟市地球温暖化対策実行計画

（地域推進版）

-環境モデル都市推進プラン-

概要版

本計画について

新潟市では、2009（平成21）年3月に「新潟市地球温暖化対策実行計画（地域推進版）」を策定しました。2013（平成25）年3月に国から環境モデル都市に選定されたことを受け、2014（平成26）年4月に環境モデル都市アクションプランを包含する第2期計画として改定し、計画に基づく地球温暖化対策の取り組みを、市民、事業者、行政が一体となって進めてきました。第3期となる本計画では、気候変動に関する昨今の国内外の動向を踏まえ、地域気候変動適応計画を新たに包含しました。

また本計画は、第五次環境基本計画で提唱された考え方である「地域循環共生圏」及び、2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」の考え方に基づき、環境・経済・社会の統合的向上による課題解決を目指すことを視点に策定しており、新潟市における脱炭素社会の形成を目指しています。

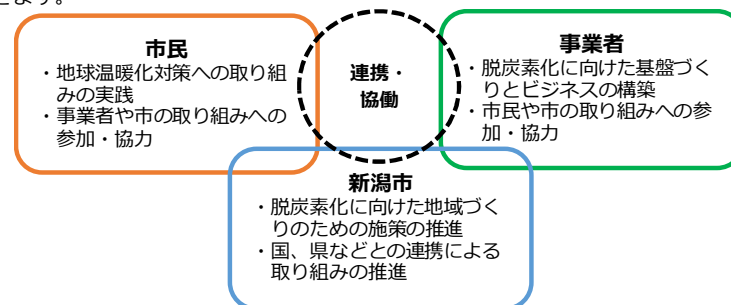


計画の期間

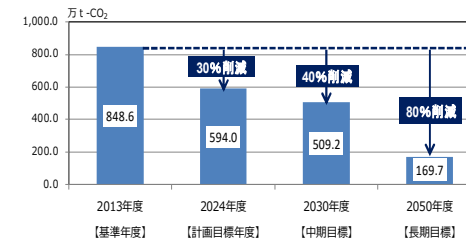
2019（令和元）年度から2024（令和6）年度までの6年間

計画の推進主体

本計画は、市民、事業者、新潟市がそれぞれの役割に応じて、主体的かつ連携・協働して取り組みを推進していきます。



新潟市の二酸化炭素排出量削減目標



短期目標：2024年度までに2013年度比で30%削減

中期目標：2030年度までに2013年度比で40%削減

長期目標：2050年度までに2013年度比で80%削減

新潟市の将来像

田園型環境都市にいがた



取り組み方針5 適応策の実践

基本対策

- ▶ 自然災害対策の推進
- ▶ 熱中症・感染症対策の推進 (ヒートアイランド対策)
- ▶ 適応型農林水産業の推進
- ▶ 地域のレジリエンスの強化



取り組み方針4 低炭素型ライフスタイルへの転換

基本対策

- ▶ 低炭素社会への人づくり
- ▶ 資源循環型社会の構築
- ▶ シェアリングの促進
- ▶ 市の率先行動の推進



©新潟観光コンベンション協会

取り組み方針3 低炭素型交通への転換

基本対策

- ▶ コンパクトなまちづくりの推進
- ▶ 公共交通と自転車・徒歩利用の促進
- ▶ モビリティの低炭素シフト

取り組み方針2 スマートエネルギー シティの構築

基本対策

- ▶ 地域特性を生かした再エネ・省エネ・蓄エネの推進
- ▶ 未利用エネルギーの活用の推進
- ▶ エネルギーマネジメントの推進
- ▶ 環境と経済の好循環の推進



取り組み方針1 田園環境の保全・ 持続可能な利用

基本対策

- ▶ 環境保全型農業と農業の低炭素化の推進
- ▶ 田園資源の有効活用と交流促進
- ▶ 田園環境の保全
- ▶ 緑化の推進



温室効果ガスの削減目標

新潟市の温室効果ガス排出量は、2016（平成28）年度の時点で753万t-CO₂で、その大半が二酸化炭素です。

二酸化炭素の削減のため、2013（平成25）年度を基準として、2024（令和6）年度までの短期目標と、2030（令和12）年度と2050（令和32）年度の中・長期的な目標を掲げ、その達成に向けて必要な施策・事業等を創造していきます。

目指すべき将来像・取り組み方針・基本対策

新潟市では、田園地域と市街地の豊かな価値を循環させながら、都市全体が調和ある発展を遂げる「田園型環境都市にいがた」を目指すべき将来像として掲げていきます。新潟市の将来像と温室効果ガスの削減目標を達成するため、また、気候変動による影響を回避・軽減するために、5つの取り組み方針を掲げました。

これらの取り組み方針のもと、市民、事業者、新潟市がそれぞれの役割に応じ、主体的かつ協働して取り組みを推進していきます。